

CAMPAIGN

8/15韓国ソウル、漢江大公園にて ワンコリア・フェスティバル開催！

戦後80周年、日韓国交正常化60周年となる今年、朝鮮半島の平和的統一を願う催しがソウルで開催されます。8/14～15の二日間にわたって政府関係者・学者・専門家・市民活動団体などを中心とする「ワンコリア国際フォーラム」が開催され、8/15夕刻からは南北にまたがって支流を持つ漢江の大公園にて、「ワンコリア・フェスティバル」を開催。

朝鮮半島の平和を北東アジア、さらには世界の平和に繋げようとするこの歴史的なイベントにご注目ください。



EVENT

トークライブ

「“北朝鮮で生きる”とは？」を開催



7月12日（土）、渋谷区で脱北者である川崎栄子さんを招き、トークライブ（第14回ピース・デザイン・フォーラム）を開催しました。このイベントは5月に行われた「深層！北朝鮮」の続編として開催されました。

■ 還暦をすぎて脱北したわけ

聴き手：後藤亜也（GPF Japan代表理事）川崎さんには5人のお子さんがいらっしゃり、川崎さんは2003年に脱北された後、娘さんがお一人と、そのお子さん二人だけ、脱北に成功されました。他のお子さんたちが脱北できなかった事情はどんなものですか？

川崎：脱北については北朝鮮に行った最初の頃から考えていました。しかしある時、仲の良かった帰国者の男の子3人が、一緒に脱北しようとして失敗してしまいました。そのような友人の失敗を見て、女の私には難しいと考え、就職し、結婚しました。子育ての間は脱北は考えられません。私が45歳の時に主人が亡くなりました。子ども達を育て、結婚をさせ、気がつくとも還暦になっていました。それでこのまま一生を終えるかと考えたら、それはあり得ないと思い、脱北を決行して中国に入りました。

■ 「お母さんはこれからは、自分の親兄弟のところへ…」

北朝鮮を出た後、私は中国の内陸の方にいたのですが、北朝鮮側から息子が国境まで来たという連絡があり、私もバスでそこに行きました。2003年当時は、まだ北朝鮮がそれほど脱北する人に神経を使っていませんでした。



国境警備隊に高級タバコでも渡せば、警備隊の目の届く範囲内で息子と話しても、何も言われませんでした。私は自分が最初に脱北してルートを確保し、その後で子ども達を脱北させようと考えていましたが、脱北して日本に行くことをどうやっても、息子に切り出すことができませんでした。その時に息子の側から切り出したのは「お母さん。お母さんは僕たちをみんな育ててくれて、親としての務めは終わったので、これからは自分の親兄弟のところに行っても良いよ」と。

息子からすると、（在日帰国者である）母親が一人きりで生きているのを見てきたから、少し不憫に思っていたのだと思います。「だから帰って良いよ」と。本当に涙が出ました。

私は「じゃあ、あなた、一緒に行かない？」と言ったんです。

「いや、僕は他の兄弟をみんな送り出して、最後に動くから」と答えました。男の子は自分一人だという責任感だと思います。

■ 誰よりも愛した孫息子

その息子に、息子が一人いました。私の孫です。その孫は特別な存在で勉強もスポーツもずば抜けていて。小学生の頃から100万人の道で7人だけ選抜されるエリートコースで勉強していたのですが、その後、その子は軍隊に入りました。

軍隊では私の孫は日本と関わりがあることでカモにされ、しょっちゅう家に帰らされて、「何か物を持ってこい」と要求されました。しかし孫は、脱北したおばあちゃんから物を送ってきてもらうことなんかできないと分かっていて、上官の要求を聞きませんでした。「コイツからは何も取れない」と分かった途端、上官は殴って、建物の6階から突き落として殺してしまったのです。それが北朝鮮というところですよ。



▲トークライブ詳細はウェブサイトへ



NOTICE

“注目動画” 公開のお知らせ

「深層！北朝鮮」～脱北者と語る、北朝鮮の実情 対話・質問会～

「朝鮮半島分断が産んだ現実」～脱北者の声に耳を傾け、実現すべき未来を描く～



前編



後編



Global Peace Foundationでは、韓国で草の根市民運動として展開されている朝鮮半島平和統一のための運動を、世界的にサポートするため、「ワンコリア・グローバル・キャンペーン」を推進しています。朝鮮半島のみならず、日本と北東アジア、そして世界のために、なぜ統一が必要なのかについて、まとめてみます。

政権交代があっても変わらない韓国民の統一への願い

現在、韓国社会で最大の統一のための市民運動はAKU (Action for Korea United) によるものです。昨年9月28日には臨津閣に3万名の市民が集い、ワンコリア・フェスティバルを開催。今年は8月15日、ソウルの漢江大公園にて開催し、統一のために声をあげます。中でも切実な願いを持って先頭に立っているのは、1000名を超える脱北者の方々です。北朝鮮に家族や友人を残している彼らにとって、朝鮮半島が再び戦争の過程を経ることなく、平和的に統一されることは、希望を託すことができる唯一の道だと言えるでしょう。



可能・不可能の前に、統一は「道徳的責任」



日本在住の脱北者である川崎栄子さんは、このような韓国での運動に対して、日本でも在日コリアンの方々を中心として賛同の声を集めるため、AKU Japanの代表理事を務めています。

私たちGPF Japanとも協力し、様々なフォーラムやトークライブなどに登壇することで、日本の人々に向けて北朝鮮の実情を語っておられます。

川崎さんからたくさんのお話を伺う中で常に感じるのは、やはり北朝鮮で今も続いているすべての人権侵害は、いち早く終わらせなければならないということです。

北朝鮮によるミサイル発射などの挑発行動のニュースによって、北朝鮮に対する対立感情や反感が煽られる傾向があります。しかし川崎さんの体験談を通して、そこに生きる人々は私たちと同じ生身の人間であることを知ってみると、**政権と人々は分けて考える必要がある**ことに気付かされます。

本来、「自由」や「人権」というものは、誰もが生まれながら与えられているものとして保障されるべきものであり、独裁者や政権が一方向的に奪ってはならないはずのものです。

「統一」というとすぐに「実際には難しいのではないか」という悲観論が出る傾向があります。しかし北朝鮮で生きる人々が晒されている状況を考えれば、**統一は同じ北東アジアで生きるすべての人々にとっての「道徳的責任」だと言えるのではないのでしょうか。**

「統一」は日本と関係があるか？

では人道的な観点以外に、日本の人々が朝鮮半島の平和的統一に積極的に関わろうとする動機を持ち得るのでしょうか？実は朝鮮半島問題を深く掘り下げるほど、この問題が如何に北東アジア地域の安全保障にとって悩みの種であり、また経済的な発展にとっても「頭打ち」の原因になっているのかを見て取ることができます。

周知の通り、朝鮮半島分断はコリアンの人々の意思によってではなく、冷戦が顕在化する世界情勢の中で強制的に引き起こされたものです。従って今日も、**38度線は朝鮮半島だけの問題ではなく、北東アジア全体にまたがる断層を象徴しています。**

統一は、朝鮮半島を取り巻く米国・日本・ロシア・中国まで含めた大国同士が同じテーブルにつき、朝鮮半島と北東アジアの未来のビジョンに対して、一定の合意を成した上でこそ実現される金字塔であり、それは世界が和解に向かうきっかけになり得るのです。朝鮮半島統一に関して、「その話は日本と関係がありますか？」という質問を受けることがあるのですが、その答えは「大有り」です。

現代を鼓舞する夢：コリアン・ドリーム

最近行われた参議院選挙では「失われた30年」を打破するための経済政策について多くの議論が行われました。確かに国内の経済政策も重要ですが、北東アジア全体に冷戦の残滓として横たわる対立構造が改善されることは、より重要な要素です。統一という機会を活用して中国やロシアとの関係性がスムーズになっていくことは、**この地域の経済環境を土台から変化させて余りあるものです。**

しかしさらに重要な要素は、戦後の世代が復興と発展という夢を共有していたのと同様に、今後の発展の原動力として、現在の世代の人々が共有することができる「夢」の必要性です。

経済発展の鈍化は日本に限らず先進国に共通する現象になっています。その根本的原因是、すでにある程度の経済的繁栄を享受している現代が「これ以上経済が発展することで得られる幸せとは、果たしてどれだけのものだろうか？」という疑問を持っていることです。現代を鼓舞する「新しい夢」が必要なのです。



世界GDPの半分を占める日韓米と中露

それが正に、「戦争の世紀」であった20世紀からの対立構造を乗り越え、**揺るぎない平和と発展を北東アジアに確立するという夢**です。そしてそれは、分断による痛みを最も感じてきた朝鮮半島の統一から始まるというのが、コリアン・ドリームが意味する所です。

北朝鮮社会の変化と周辺国の備え

最近の脱北者へのアンケート結果から、北朝鮮では新たな富裕層の登場、スマートフォンの使用、韓流文化の流入、金正恩体制への信頼低下など、徐々に社会に変化が起きているという報告があります。この変化は今後縮小するよりは拡大の方向に向かうでしょう。

仮に北朝鮮崩壊の日が突然来るとしても、それに対して**周辺国が何の準備もしていなければ、周辺大国同士が北朝鮮地域を巡って利害関係の衝突を起こすという悪夢**が展開されかねません。

重要なことは、北朝鮮の崩壊を待つのではなく、日韓米・中露という世界GDPの半分を占める国々が**朝鮮半島周辺地域の未来ビジョンを共有することで、北朝鮮をその方向に誘導していく**ことです。

活用すべき「統一という機会」

北朝鮮は問題が山積みの国家ではありますが、一方の韓国や日本、アメリカといった民主主義の国々にも、たくさんの矛盾は存在しており、近代以降の西欧化一辺倒の流れにも疑問が投げかけられています。

朝鮮半島はこれまで「分断」という重荷を背負ってきましたが、考えてみれば、**統一を機会に、憲法を新たにし、新しい国家像を描くことも可能です。**東西洋のあらゆる国家の事例を参考にしながら、朝鮮民族の伝統や長所を活かした、朝鮮民族らしい現代国家を作ることができれば、それは多くの国家にとって、新しい発展モデルを提供することになるでしょう。

在日コリアンの方々はもちろん、日本社会の多くの方々が、北東アジアの未来のためのビジョンを共有し、この夢の主人公になってくださることを願っております。

(文責：GPF Japan事務局)

